

プレゼン：3月10日 A会場 13:30～ 予防保全、予知保全の可能性

対象業務の現状と取組み

後付で安価な手段を使って、設備の予知保全に取り組む

工場の中には搬送装置のように、代替の利かない既存の設備があります。日常点検の一部は個人のスキルに依存する定性的・感覚的な点検であるため、予兆が見落とされ、突発的な設備故障が発生することがあります。

問題解決の手段として常時監視が考えられますが、既存設備に対する高価なセンサの設置や組込みにはコストが掛かり、稼働への悪影響も懸念されます。

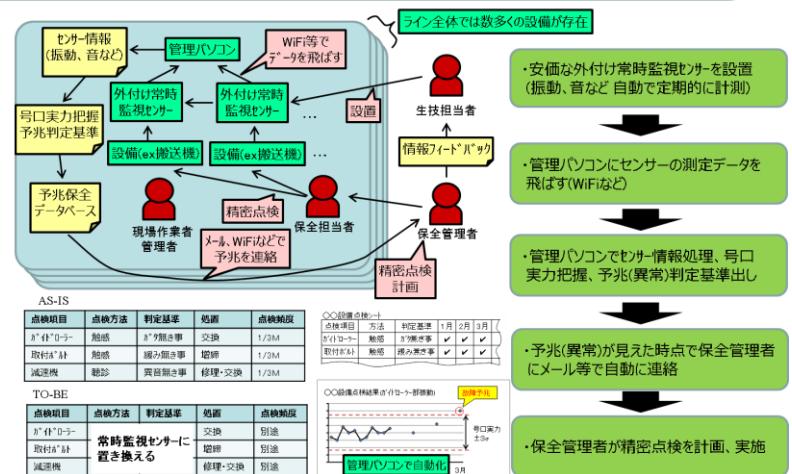
そこで、当W/Gでは安価で設備稼働に影響しないセンシング手段と取得データを分析して故障予兆を検知・発報する方法を検討しました。

実証実験・業務シナリオ (TO-BE)・成果

「できるだけ安価なセンサ・機器」を既存の設備に「後付け・外付け」して故障を予知する仕組みの実現に取り組みました。

実証実験では遊休の昇降装置を用い、正常状態及び擬似的に作った異常状態のセンサデータ(振動・電流・音響)を取得・分析し、故障予知ロジックを作成しました。

市販のプラットフォームを活用し、疑似的に作った異常を検知・発報することが確認できました。



使用プラットフォーム:



ファシリテータ: **ダイフク 内藤信吾**

トヨタ車体 **杉浦信幸**

エディタ: **トヨタ車体 寺田正和**

たけびし **石田匠**

東芝 **外山尚介**

東芝 **池田和史**

NTTデータ

日本オートマチック

三菱電機

リコー

江口寛之

蒔田和則

古嶋寛之

浅野大雅